

14日 土曜

ネヘミヤ



8:1 民全体が、一斉に水の門の前の広場に集まって来た。そして彼らは、【主】がイスラエルに命じたモーセの律法の書を持って来るように、学者エズラに言った。

8:2 そこで、第七の月の一日に祭司エズラは、男、女、および、聞いて理解できる人たちすべてからなる会衆の前に律法を持って来て、

8:3 水の門の前の広場で夜明けから真昼まで、男、女、および理解できる人たちの前で、これを朗読した。民はみな律法の書に耳を傾けた。

8:4 学者エズラは、このために作られた木の壇の上に立った。彼のそばには、右手にマティテヤ、シエマ、アナヤ、ウリヤ、ヒルクヤ、マアセヤが立ち、左手にペダヤ、ミシヤエル、マルキヤ、ハシュム、ハシュバダナ、ゼカリヤ、メシュラムが立った。

8:5 エズラは民全体の目の前で、その書を開いた。彼は民全体よりも高いところにいたのである。彼がそれを開くと、民はみな立ち上がった。

8:6 エズラが大いなる神、【主】をほめたたえると、民はみな両手を上げながら「アーメン、アーメン」と答え、ひざまずき、顔を地に伏せて【主】を礼拝した。

8:7 ヨシュア、バニ、シエレベヤ、ヤミン、アクブ、シャベタイ、ホディヤ、マアセヤ、ケリタ、アザルヤ、エホザバデ、ハナン、ペラヤなどレビ人たちは、民に律法を解き明かした。その間、民はその場に立っていた。

8:8 彼らが神のみおしえの書を読み、その意味を明快に示したので、民は読まれたことを理解した。

8:9 総督であるネヘミヤと、祭司であり学者であるエズラと、民に解き明かすレビ人たちは、民全体に向かって言った。「今日は、あなたがたの神、【主】にとって聖なる日である。悲しんではならない。泣いてはならない。」民が律法のことばを聞いたときに、みな泣いていたからである。

8:10 さらに、彼は彼らに言った。「行って、ごちそうを食べ、甘いぶどう酒を飲みなさい。何も用意できなかった人には食べ物を贈りなさい。今日は、私たちの主にとって聖なる日である。悲しんではならない。

【主】を喜ぶことは、あなたがたの力だからだ。」

8:11 レビ人たちも、民全体を静めながら言った。「静まりなさい。今日は聖なる日だから。悲しんではならない。」

8:12 こうして、民はみな帰って行き、食べたり飲んだり、ごちそうを贈ったりして、大いに喜んだ。教えられたことを理解したからである。

城壁や神殿などの工事は見えるもので、分り易いのですが、神様のみわざは見えるものが完成して終り…ではありません。見えない信仰の部分が大切であり、そのための工事なのです。

ですからイスラエルの民が律法の書（神の命令＝聖書）を求めて聴いたことは、ここにハイライトとして記されているのです。皆が心を一つにして、「アーメン、アーメン。」と答えてひざまずき、地にひれ伏して主を礼拝した…というのは素晴らしい礼拝の姿です。そのような礼拝をささげる者の1人となりましょう。

「みな泣いていた」とありますが、これも素晴らしい姿です。彼らは自分たちの罪の大きさを思っ泣いたのです。またそれにも関わらず、神

様がこのようにエルサレムに帰還して城壁を再建するまでに憐れんでくださった愛に感じ入ったのです。

罪に対して敏感な者が主の愛に感じることができるのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

